



# クリスマスシーズン

今年も忙しい季節になった。米国生活で10月の終わりから年末まで、ハロウィン、サンクスギビング、クリスマスという3大イベントが続くからである。まず、ハロウィン。最近では日本でもその騒ぎが輸入されているようだが、カボチャを飾り、悪魔の服装を子供にさせて、各家庭を回る。「Trick or Treat」と脅かしてくる子供に、用意していたお菓子を渡して「魔法をかけないで」とお願いするのが習慣である。受け入れ側は、「訪問をお待ちしています」というサインとして蝋燭を灯し、ハロウィンにちなんだ飾り家の前に出しておく。安全を考えて、小さな子供には大人がついてくる。サンクスギビングは、親戚が集まって七面鳥を食べるというのが慣わしである。シリコンバレーは複数民族のゴツ煮状態の土地柄だから、どこまでこういう習慣を踏襲している家庭が存在するのかが疑問だが、この手の騒ぎはクリスマスで頂点になる。1カ月前から家々は電飾し、クリスマスの買い物の予定を立てる。早めに買い物に行かないとショッピングセンタの混み方は尋常ではない。これらの一連のイベントが続く約2カ月間、多くの人は、あまり熱を入れて仕事をしていないように見える。しかし、こういう定型パターンがあるというのは、なにか安心と潤いを感じさせてくれる。

少し横道にそれるが、紹介したい冬の話が2つ。冬になるとサンフランシスコの南に象アザラシの群れが来る。繁殖地として有名なのがカリフォルニア州立公園になっている Año Nuevo 公園<sup>1)</sup>だ。機会があれば訪問されることをお勧めする。繁殖地を保護するために入場制限があるので予約をした方が無難。また、どのくらいの数のアザラシが来ているかはインターネットで確認できる。もう1つ、クリスマスシーズンでの私の楽しみは蟹(ダンジネス・クラブ)である。街中でも食べられるが、豪快にいこうと思ったら自分で料理することをお勧めする。近くの港に行くと、蟹を売っているという広告幕を張った漁船が止まっている。交渉すると1ポンド2~3ドルで売ってくれる。20ドルも出せば5~6パイ買える。甲羅を下にして蒸し器で蒸せばでき上がり。とにかく安くおいしい。

IT関係の最近のトピックスをいくつか紹介したい。eBayはご存知のように時価総額が68B\$と大発展しているオークションサイトである。クリスマスシーズンになれば、ここの利用者も急増すると思われる。私の職場の同僚はeBayで高級自動車を買った。かなり高級なものも取引の対象になっている。最近の話題はフリー VoIP サービスで有名になった Skype の買収である。まさか eBay が買収するとは思わなかったが、シリコンバレーの業界通は当然と受け止めている。高価な物

の取引では、やはり対面でのやりとりが重要で、Skype の機能は eBay の発展に役立つだろうという。一方、Skype 側にも、Google の VoIP サービス参入計画など多くの新入りの競争が押し寄せてきて、いつまでもリードしていられるとは限らないという情勢判断もあったようだ。

Google はいろいろな話題を提供してくれる。いろいろな新サービスが提供されているが、最近のシリコンバレーでの話題は、彼らの研究規模の急拡大だ。シリコンバレーの真ん中、Moffett Field の元空軍基地に接続して NASA の研究施設がある。かなり広大な土地と建物があるのだが、その半分が Google の研究施設になる。Google は数百人規模での研究者の募集もしているという。PC だけでなく、車載情報端末(カーナビやバックシート用のテレビなど)への情報サービスも検討している。Map サービス(行き先の場所や行き方を知らせてくれるだけでなく、その周りの施設の広告も掲載)はすでに定着しているから、その拡大と思えば自然な機能拡張である。なお、英語で Google は動詞になってきている。「Google する」というのは「あまねく探す」ぐらいの意味のようだが、機能が拡大するとどうなるのだろうか。

インターネットの利用は増加の一途である。しかも、季節変動が大きい。クリスマスシーズンは処理量が増える。今年の春、久しぶりに米国のデータセンタを訪問した。1998年ごろ、広大な敷地に建設した大型のデータセンタで、外部接続する通信回線、電源、空調など完全な2重系の立派な施設である。何重もの入退出のセキュリティも万全で、その部分は7年前と変わっていない。しかし、肝心の計算機システムが一変してしまっている。まず、計算機設備は小さくなった。ネットワークが速くなったから、同じサイトでの2重化はしていない。地震などの災害に備えて、バックアップを遠隔地に置き、リアルタイムにバックアップしているので、計算機設備は予想の半分である。まだ、昔のサーバやストレージで動くものはそのまま置いてあるから、多少は設備がある感じだが、新しいサーバはいわゆる Blade Server になって場所をとらない。だからデータセンタの中はガラガラという感じである。さらに省電力化が進んだから、予想していたほど電源ニーズもないし、空調能力の心配もない。扱うデータ処理量は伸びているのである。

ソフトウェアはオープンソースソフトの利用が進んだ。OS は基本的に Linux で、その他のオープンソースソフトもどんどん取り入れている。安いからという理由でなく、安定性の高さを評価しての選択だ。信頼性が高く、性能よく動作する上に、メーカーの都合で Upgrade されたりサポートが中止になったりしないという意味での安定性が選択の理由だという。私だけが驚いているのかもしれないが、ルータまでオープンソースソフトの利用が検討されている。

日立アメリカ Ltd.

廣瀬 正 [tadashi.hirose.sd@hitachi.com](mailto:tadashi.hirose.sd@hitachi.com)



図-1 携帯電話の無線イヤホン

データセンタの運営者の悩みは、構成変更の頻繁な発生だという。管理の容易さゆえの Virtualization を各メーカは工夫しているが、私の訪問したデータセンタでは、この構成管理システムは手作りだった。

なんでもサーバに情報を送らなくてもいいじゃないか、分散処理でやろう、という動きが出てきた。シリコンバレーにある BlueVector 社は、RFID の信号処理をするルータを開発している。たとえば、RFID タグで荷物の整理・管理をしている倉庫では、非常にたくさんの RFID 情報が検知されるが、それを倉庫ごとに配置していたルータの中で簡単な情報処理をして、集約した情報だけを上位や関係するシステムに報告する。いわゆる分散処理をしているわけである。システム/ネットワークの負荷を分散させるだけでなく全システムダウンの危険防止にもなる。考えてみれば、このルータ上には RFID 処理以外にも、載せておけば便利な機能がたくさんありそうである。上述の BlueVector 社は自社のルータを“エッジサーバ”と呼んで、応用範囲を広げはじめた。

アジアの電機メーカが期待しているのはクリスマスシーズンに向けての大型ディスプレイの拡販である。最近、ベンチャ企業を訪問して気づくのは、会議室にプレゼンテーション用の大型ディスプレイを置いているケースがちらほら見え始めた点だ。主流はまだ投影型のディスプレイの利用だが、発光型のディスプレイは部屋を暗くしなくていい、テレビ会議に使える、静かであるなど、なるほどメリットはいろいろある。プラズマディスプレイの値段が下がったのが普及に力を貸しているなど実感している。

テレビ会議といえば、WebEx 社の Web 会議サービスがずいぶん一般的に使われるようになった。遠隔地のベンチャ企業の場合、「プレゼンテーションをこれでやらせてください」というケースが増えている。あらかじめ決められた時間に指定された URL に行くと先方のプレゼンテーションが見える仕組みだ。説明者は電話で話しながら画面をめくる。それに同期して遠方の受信者の画面も変わる。特段難しい機能ではないが、簡単に使えるようになっていっているところがミソなのだろう。このサービスを使うには 1 カ月に 20 万から 30 万円もの契約料を払わねばならないが、セールスマンが飛び回ることを考

えれば料金は安いという。普及の背景には、「直接伺わないと失礼」とは思わない能率重視の文化があると思う。これに対抗してか、マイクロソフトは Live Meeting という類似の機能のキャンペーンをテレビ広告し始めた。

最近、米国政府（上院，下院）は 2009 年にデジタル TV 放送を始めることを決議した<sup>2)</sup>。まだ先の話だが、コンテンツの高画質化が大型ディスプレイの普及を後押しするだろう。もう少し身近な話は、最近のケーブル事業者とテレコム事業者の戦いで、Video on IP の具体化が進みそうなどである。この傾向を期待して、ベンチャキャピタリストの関連企業への投資が活発化している。たとえば、FTTH (fiber to the home) のためのチップメーカ、Video on Demand サーバのための高速化技術などである。

最近気に入っているのがホットサイダーである。リンゴジュースを暖めて、シナモン・スティックとオレンジの輪切りを 1 つ入れる。香りがよくて体が温まる。ウイスキーなどのアルコールを入れてもいい。ワイン党には怒られると思うが、ワインを温めてシナモンなどの香辛料を入れて飲むという飲み方もある。冬の飲みものだ。最後に、ワインにちなんだ話題を 1 つ。

カリフォルニアは有数のワイン産地の 1 つだが、よいワインの生産にはいくつもの秘訣があるらしい。葡萄の成長環境をきちんと知ることが重要な要素で、より細かく管理する必要があるが、まずはよくモニタしようというのである。これをビジネスにし始めたのが、Palo Alto にある GrapeNetwork<sup>3)</sup> 社である。ワインヤードの中に 10 ヤードおきにセンサネットワークを張り巡らし、そのデータを生産者・醸造業者に提供するサービスを始めた。現在は、温度湿度などの計測だけのようにだが、葡萄の中の糖度センサも某大学と研究しているという。

IT の世界を進歩させている技術の 1 つは無線技術だ。WiFi の普及で PC の使い勝手がずいぶんよくなった。センサネットワークの場合は低ビットレート近距離だが消費電力の少ない Zigbee が使われている。Wireless USB、WiMax と特性の違った無線規格がどんどん普及し始めている。これからは、これらをどう使うか、応用アイデアの競争の時代になっている。最近町で、1 人でしゃべりながら歩いている変な人がいる。よく見ると耳に補聴器のようなものを引っ掛けている（図-1）。これが Bluetooth を使ったワイヤレスイヤホンで、電話しながら歩いているのである。クリスマスプレゼントの候補の 1 つだ。

冬のシリコンバレーも魅力的です。ぜひおいでください。Merry Christmas and a Happy New Year.

#### 参考 URL

- 1) [http://www.parks.ca.gov/?page\\_id=523](http://www.parks.ca.gov/?page_id=523)
- 2) <http://commerce.senate.gov/newsroom/printable.cfm?id=247497>,  
[http://energycommerce.house.gov/108/News/10262005\\_1698.htm](http://energycommerce.house.gov/108/News/10262005_1698.htm)
- 3) <http://www.grapenetworks.com/>

(平成 17 年 11 月 16 日受付)